批判的社会科学研究の最前線⑯
シリーズ「批判的実在論の基礎と応用⑤」

オンライン研究会

教育実践における批判的実在論の可能性

―未来社会の構想からエージェンシーの変容、評価への展望―

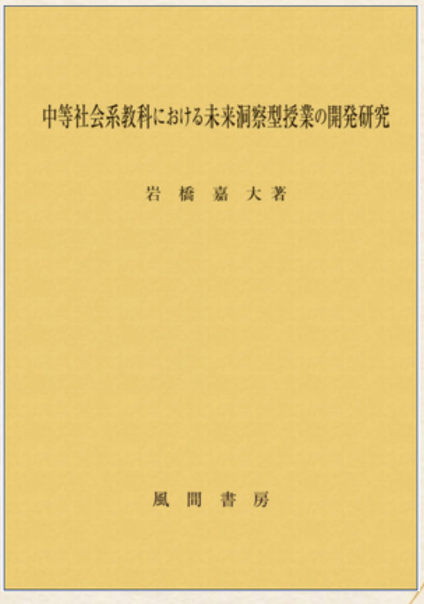
登壇者 岩橋 嘉大（兵庫県立青雲高等学校）

日時 2026年12月19日（土）
14：00－16：00

参加費 無料（途中入退出自由）

開催方法 オンライン（Zoomミーティング）
参加希望者に前日までに連絡します

申込先 以下のフォームよりお申し込みください。
https://forms.cloud.microsoft/r/C4piHzi6y9



お申込みはこちらから

本発表では，批判的実在論の存在論が未来学，未来洞察の認識論として基盤的役割を果たし，未来社会を構想し，説明する教育研究を可能とすることを提案する。起こりうる未来や望ましい未来を，いかに実現可能性も踏まえ，創造的に描くことができるのかという点について授業実践も示しながら論究する。また，博士課程後の応用的研究として，マーガレット・アーチャー（Margaret S. Archer）の形態生成論を用い，自身が主宰する400名以上の高校教員が参加する高等学校「社会系教科」研究会の分析を図る。そして，高校教員の原初的エージェンシーから協働的エージェンシーへの変容とそれに伴う社会構造との相互作用への考察を通じて，教員が対話コミュニティをどのように捉え，働きかけ，それがどのような結果をもたらしたのかを提示する。以上を通じて，批判的実在論を未来洞察の認識論的・方法論的基盤として位置づけるだけでなく，教育実践におけるエージェンシーの変容とその生成メカニズムを説明，評価するための分析枠組みとして捉え，その応用可能性を論じる。なお，本発表は，12月に刊行予定の「中等教育における未来洞察型授業の開発研究」を踏まえており，今後における批判的実在論の応用的研究への貢献を念頭に置いている。

司会・お問い合わせ
加藤雅俊（立命館大学教授）
mkato@fc.ritsumei.ac.jp

主催
立命館大学人文科学研究所重点プロジェクト
（グローバル化と地域の多様性）